

松葉屋通信

matubaya-tushin vol.18
2011.12.1



冬はさむいけれど
空気や光りはうつくしい
うつくしい冬の景色を見ながら
あたたかい家の中ですぐす
しあわせ

秋の夜長は

ひとりでじっくり読みたい本も

真冬の夜は
みんなで読みたいくなる

あたたかい火を囲んで

あたたかい飲みものを両手でくるんで

みんなでひとつの本を開く

そんな冬の

ある晩に

ひらいてみたい絵本を集めてみました



雪のふる夜は
楽しいペチカ
ペチカ燃えろよ
お話しましょ
むかし昔よ
燃えろよペチカ
北原白秋



夜中から降りつもった雪。ぼくは、とびおきて外に出ようとしたんだ。でも、ママが風邪ひくから、ダメって。

こどもの頃は、雪の朝が大好きだった。きれいで、ふかふかと気持ちよさそう。そんな気持ちを思い出す。雪遊びで冷えた手のひらを、おかあさんがあたためてくれるような、静かで、優しい情景を描いた絵本です。

酒井 駒子

走っている車から落ちてしまった犬。あとを追って走る走る走る…。デッサンだけで物語る、この力強さと切なさ。

みんなで声を出して読む



ロシア屈指のアニメーション映画脚本家ヴィッテンゾンと『チェブラーシカ』でおなじみ、名匠シュワルツマンによる絵本です。1967年という、今から40年近く前に作られました。子犬がほしくてたまらない女の子アーニャ。でもおかあさんは犬を飼うのは大反対。そこで赤い手袋を犬に見立てて遊んでいると…。読んでいるみんなのこころもほっこりあたたかくなるお話です。

ヴィッテンゾン・ジャンナ・ジーシュワルツマン・レオニード

ガブリエル・バンサン



いろいろな人やものの気持ちになる



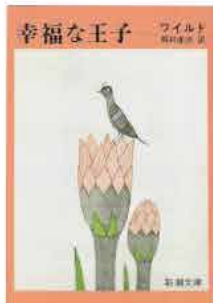
旅するかばんやガラゴは冷たい北風がびゅーと吹いてきたのでさっさと店じまいしてうちに帰ります。ガラゴの帰りをまっていた友だちが次々あつまって、パーティーがはじまります。いつしか外はまっ白な雪。でも家の中は仲間と一緒にあたたかい。冬ごもりっていいな。

島田 ゆか



娘と息子の3年ごしのマイブーム。リサとガスパールの絵本。このシリーズ、全部わが家にそろってます。これは仲良しリサとガスパールのはじまりを知ることができて、ファンとしてはうれしい一冊。

グットマン・アンハレントスレーベン・ゲオルグ

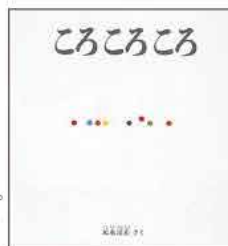


オスカー・ワイルド

オスカー・ワイルドは、かなしい。そして、うつくしいお話を、いくつもいくつも書いている。理不尽であっても、その人にとっては真実の、ものがたり。

ころころと、ころがる色玉を追っかけているうちに、なんだか一緒に旅をした気分になります。

元永定正



想いをめぐらす

わかやま絵本の会、という郷土出版の会があります。切り口も、そして挿し絵もすばらしい。おすすめはめずらしい松煙墨の作る工程を紹介した本と、南方熊楠の十二支。熊楠の原作は、とても難しい。これをえほんで楽しめるなんて、ほんと、うれしい。

わかやま絵本の会





フィリクス・
ホフマン

グリム

どちらも同じお話だけど
ホフマンは子どもの頃から
手元にあったねむりひめ。
カインのは、学生の頃洋書
で手に入れたもの。



エロール・ル・カイン



大好きな日本画家、秋
野不矩と、いしいもも
この文章による昔話シ
リーズの一冊。
かわいらしくて、生き
生きとした筆使いです。

秋野不矩

挿し絵をたのしむ

カイ・ニールセン

これは、北欧神話「太陽の東、月の西」
作品の多くないニールセンの、美し
い挿し絵にひかれて買いました。
岸田理生の翻訳もうつくしい一冊。

家にあったアンデルセン童話のなかで、
子どもの頃から好きだったのは、ナイチ
ンゲールと、あるおおかさんの話。
舞台は中国、皇帝のために歌うナイチン
ゲールのまごころのお話。オスカー・ワ
イルドのナイチンゲールは、もっと生々し
くせつなくて、泉鏡花と通じる。
わからずやはどっちだ？
けれどアンデルセンの底には、諦念の落
ち着きが、静かに流れている。



あたたかさを感じる

ハンス・クリスチャン・
フォン・アンデルセン

絵本ではないけれど

カレル・
チャペック

ロボット、という言葉をはじめて使
ったチャペック。呼び方だけでなく、
その先をも見ていたみたい。



宮沢賢治



銀河鉄道の夜も、セロ弾きのゴーシュも、注文
の多い料理店も、どれもこれも、いいけれど。私は、
オツベルと象や、やまなし、貝の火、なんかが好き。
これは、小林敏也による画本・宮沢賢治。素朴で
モダンでカッコイイ。

新美南吉

たった29年の生涯に、3冊
の本を残して逝ってしまった
新美南吉。
宮沢賢治と、くらべられる
ことも多いけれど、ものご
とを見る、やさしくて、せつ
なくて、いとおむむような
姿勢がいい。子どもの頃から、
大好きな「ごんぎつね」は、
どうしようもなくかなしい
けれど、みんなやさしい。



まつの文庫

Music! Information

この季節になると、きまって聞きたくなる「くるみ割り人形」です。



くるみ割り人形(全曲)

ロンドン交響楽団 (東芝EMI)
指揮*アンドレ・プレヴィン

初雪のころになると、なんとなく口ずさんでしまう「くるみ割り人形」。チャイコフスキーのバレエ音楽の中でも、たぶん一番好きな楽曲です。誰でも耳にしたことがある「花のワルツ」や「あし笛の踊り」「こんべいとうの踊り」。また、異国の雰囲気を楽しめる「アラビアの踊り」や「トレバック(ロシアの踊り)」チャイコフスキーの天才って、こういった曲の中に頭われているなあ。なんて、生意気にも思ってしまう。こちらのアルバムは、2009年よりNHK交響楽団の首席客演指揮者をつとめるアンドレ・プレヴィンの指揮によるもの。少年の頃から親しんだジャズでもピアニストとしても活躍しています。

納品日記

最高のひと時

太陽の光を浴びながら家族全員で朝ご飯を食べる時。
休日にボサノバをBGMに親子3人でおやつを食べるとき。
夕飯時には
「今日は何して遊んだの？」
と息子の報告を聴く瞬間。
枡のテーブルについて、部屋全体を見回し
ひとりでお酒を飲んでいるとき。
一つひとつの景色が大切な家族の時間。
テーブルを中心に家族が一緒にいる時間が増えました。
テーブルは何も言わないけど、きっとずっと我が家の中心で
家族を見守ってくれるんだろうなあ
30年後、息子がパパになった時に
「このテーブルはパパが幼稚園の時に
松葉屋さんという家具屋さんで買ったんだよ」
と息子の息子に言ってるんだろうな。
息子の息子も、
「このテーブルはパパのパパとおじいちゃんが買ったんだよ」
と代々言い伝えられていくテーブルにしていきたいと思います。
素敵なテーブルをありがとうございます。
100年使う家宝にします。

これに決めました！



今年の秋、枡の一枚板
テーブルをお届けした
前橋市の今泉さまより、
うれしいおたよりをい
ただきました。



お引越し先に納品の一枚

松葉屋家具店+くらし道具学研究所
〒380-0841 長野市大門町45
since1833@matubaya-kagu.com
TEL026-232-2346
FAX026-237-4558

☎ 0120-55-2346

(水曜定休)

© 松葉屋家具店+くらし道具学研究所
Copyright 2011 Matubayakaguten Co., Ltd.
All rights reserved.
文とデザイン * kai, pan



その2 ●
塗料を知る、塗装を知るための
小冊子(前編)



その1 ●
木について詳しくなれる小冊子

ご希望の方は、お気軽に左記までご請求ください。

松葉屋は、家具に用いられる「さまざまなもの」
についての小冊子を作っています。
その1
主材となる「木材」のこと。
その2
生活道具としてかかせない「塗料」のこと。

小冊子をお分けしています。